

## 4 まとめ

---

1. 今期自己評価運営委員会は学生サービスの問題を中心に活動をしてきた。

この活動にあたり、本学の各事務機構(部・課、センター、研究所、各科事務室)にアンケート協力をいただくことができ、学生に関わる業務と課題の実状が把握できた。これらの回答から各部・課、各科事務室による多少の相違があるものの、中期的にも課題点を捉え点検・評価に前向きに検討されていることが明らかになった。

学生諸君からも意見をいただくことができた。事務機構の学生へのサービス・サポート項目は多岐にわたるが、おおむね学生への対応は親切で、改善については前向きであり、前進していることが窺えたとともに、学生の側から見て改善すべき事項も明らかになった。

また、ご父母のご意見も父母懇談会の内容を通して、OB、OGの意見は今回初めて開催したOB・OG懇談会でいただくことができた。それぞれ学生サービスの今後のあり方を検討する上で有効な成果が得られた。

これらのご協力をいただいた方々に感謝を申し上げる。

2. 学生サービスについての考え方は社会的にも十分に固まっているとはいえないが、今後は学生サービスという視点から大学教育を点検し改善していくことがもとめられる時代になっていくことが予想される。具体的な課題については今後関係部署で検討し取り組んでいくことを期待して、本委員会としては次のような基本的問題についての提言をすることとした。

### (1) 大学における学生サービスという視点からの点検を今後とも進めること

大学教育の基本は学生に対して優れた教育を施し、これを通して学生を社会に有意な人材として学力、知力、さらには人間力をつけさせることである。また様々な学生への福利厚生事業も重要である。学生サービスという視点は、これまでの努力を一層進めるものであるが、学生のニーズにできるだけ多面的に応えるとともに、社会的水準にそって利便性、快適性についてもあわせて提供するということを含む。教育活動そのものについてもこうした視点での点検が必要になっている。

もちろん、一般のサービス業の行っているようなサービスを行うことを想定するのではないが、学生の利用者としての側面を重視すること、指導という観点から学生を受け身の存在として位置づけるのではなく対等な立場で意見を聞き、可能であることについてはできるだけ対応していくという姿勢である。もとより経済的条件を無視することは

できないし、大学として一定の収入の中から学生サービスへ資金を回すことも限りがあることはいうまでもないが、限られた条件の中ではあっても積極的に取り組んでいく必要がある。このことは学生の満足度を高めることに直接つながるとともに、今後、必要となる大学の「競争力」の向上にとっても大きな意義を持つものである。学生サービスの向上についてはそれぞれの部署で今後とも積極的に検討し取り組みを進める必要がある。

(2) このために学生の実態の把握を進めること

学生サービスは学生のニーズをふまえて進める必要があり、そのために学生の生活や学習の実態を多面的に把握することが必要である。近年のわが国の経済状況の動向に伴って、本学の学生の生活、特に経済状況は大変厳しくなっている。その中で学生や父母の大学教育に関するコスト意識も強まっている。こうした中で、学生へのサービスを広く提供することは、学業や学生生活への支援として大きな位置を占めるであろう。

学内には学生に関して様々なデータが存在しているが、それらを活用して学生の実状を明確に把握するとともに、本学の課題を探り出すことはまだ十分には行われていない。今後それぞれの部署で一層の努力を進めるとともに大学としてそれらをまとめ、その情報を全教職員が共有する必要がある。

(3) カリキュラムや教育指導、進路についての指導やサービス提供を一層進めること

本学は時代の進展と学問の進歩に応じて機動的にカリキュラムなどの改善を進めている。このことは評価すべき点であるが、社会の変化は激しく学生の将来の進路の可能性も多様になっておりニーズも様々に広がっている。現在改革のための準備を進めているが、これらのニーズに対応するための努力を一層進めていく必要がある。

(4) 大学生活の充実についてのサービスを一層向上させること

学生の大学での生活の充実について一層の努力が求められる。八王子では再々開発が予定されており、その計画の中に学生サービスという視点を十分に組み込んで進めるべきである。その際、施設設備等の「ハード」面での事項とともにいわゆる「ソフト」面での事項も検討する必要がある。また「必要最小限」の対応にとどまらず、利便性、快適性等についても十分配慮して向上を図る必要がある。経済的支援についても進展はしているが、一層の工夫と努力が必要であろう。

(5) 情報公開を推進すること

本学の HP の内容は他大学と比べても大変充実している。この点は高く評価するものであるが、学生に提供する情報の内容を学生サービスという視点から見直す必要がある。そのためには、大学として学生に伝えるべき情報を HP に出すというだけでなく、学生にとっての必要な情報を十分に提供しているか、また学生が判断をする材料となる情報があるかといった視点からの点検が必要である。今後は、情報の双方向性という視点も重要になる。

また情報は手軽に閲覧できることが必要である。HP 上の公開は意義があるが、利便性としてはそれだけでは足りない。例えば、シラバスは現在 1 年生だけに 1 年生にとっての関係科目を掲載したものが配布されているが、上級生がシラバスを十分見ていないことと関連はないだろうか。また HP へのアクセス手段についても配慮が必要になる。印刷物による情報公開についても、学生の状況と今後の技術の発展などを見ながら、積極的

な対応が求められる。

(6) 父母、受験生、卒業生など学外へのサービスも進めること

父母、受験生、卒業生など学内にはいない関係者についても、学生サービスの考えを広げて対象としてとらえる必要がある。この場合、情報提供が重要な問題であるが、それ以外にも求められるサービスは様々であろう。これらのニーズを受けとめて取り組みを進めていくことは本学の発展にとっても大変重要である。報道機関への情報提供も広い意味で学生サービスにつながるものである。